



## 「脳梗塞について」

脳梗塞は、脳の血管がつまり、脳の組織が酸素不足で死んでしまう病気です。したがって、一度脳梗塞になってしまった部分の脳は元には戻りません。そのため、早期発見・早期治療が大変重要です。

脳梗塞には、大きく分けて3種類の型があります。一つはアテローム血栓性脳梗塞というもので、動脈硬化で血管が傷み細くなると、脳の血流が悪くなり、酸素不足に耐え切れなくなった脳組織が脳梗塞になります。したがって、動脈硬化を

進行させるような、高血圧、脂質異常症、糖尿病などのいわゆる「生活習慣病」や喫煙に関係しており、これらに対する管理も必要となります。二つ目は脳塞栓で、ほとんどが心臓を原因とする心原性塞栓というものです。心房細動という不整脈が起ると、心臓の中で血がよどみ、血栓ができてやすくなります。これが血流に乗って脳の血管にたまってしまつと、やはり脳梗塞になります。三つ目はラクナ梗塞というものです。ラクナとは「小さな穴」という

意味で、小さな脳梗塞を意味します。症状は軽いことが多いですが、中にはしばしば拡大し、麻痺などの症状が進行してしまうケース（BADといえます）があります。

脳梗塞の主な症状としては、右ないし左半身の脱力やしびれ、顔のゆがみ、ろれつが回らない、言葉が出ない・理解できない、目が見えづらい、めまいなどがあります。そして、以前から何となくというよりは、ある時突然症状が出現するものです。脳梗塞は、発症4時間半以内であれば、血栓を溶かす強力な注射を使用することで血管を再開通させ、症状の劇的な改善が期待できる場合があります（t-PAによる血栓溶解療法）。前述のような症状がみられた場合は、様子を見たりせず、救急車を呼ぶなどし、すぐに脳神経外科へ受診してください。

函館中央病院  
脳神経外科  
今井 哲秋 医長

### 【略歴】

平成16年北海道大学医学部卒業。  
市立旭川病院、北海道大学病院、  
函館中央病院、帯広厚生病院、苫  
小牧市立病院、市立千歳市民病院、  
釧路労災病院勤務を経て、平成2  
5年より函館中央病院脳神経外科  
勤務。同年脳神経外科医長に就任。  
日本脳神経外科学会専門医。



### 函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyou.com/>

診療科目／内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、  
心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全22科目  
受付時間／8:30～11:30・13:30～16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。  
休診日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)